

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561

第 64 号

HP <http://kouhoku-saibora.jimdo.com> FB 港北区災害ボランティア連絡会

2018 年 4 月



* 入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

新年度方針に向けて —楽しい災ボラへ—

新年度方針を検討する時期になりました。役員会では最近の会の動向を踏まえて先日「楽しく役にたつ災ボラ」実現のためのアンケートを実施しました。この結果や定例会、タスクでの総括を元に次年度計画を立てる事になります。

今年度は「つながりは、そなえ」を作る災害ボランティア連絡会を目指して 3 本の活動の柱を立てました。

- 1 会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役にたつ災ボラ
- 2 地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ
- 3 被災地とつながり、汗をかいて動く災ボラ

それぞれがどれだけ出来たか、新しい年度はどうすれば良いか知恵を出し合ひましょう。



アンケートからは 皆さん楽しい災ボラを望んでいたのが分かる結果でした。BBQ など野外料理をし、その中で様々なスキルを身につける企画など是非実現したいものです。懇親会もそこでできます。研修内容では実際に運営に携わったボランティアの話を聞きたいとの意見が多くありました。これらの意見を参考に新年度の計画を作って行きましょう。

青葉区災害ボランティア連絡会の訓練に参加して

2 月 25 日にもたれた訓練は、ボランティアの受付から送り出しまでの作業をメンバーが習熟する事が目的だそうで、その点は港北と同じ課題でした。ただ区が違うとやり方や位置づけの違いも有り、参考になりました。

青葉区では災ボラの位置付けが拠点を中心とした関係団体の一つとしてきちんと説明されています。そのため災害時のボランティアニーズは拠点→区→災害ボランティアセンターとなるそうです。これがどううまく機能するかが課題ですが、拠点との結びつきの点では有利です。拠点数が 41 と多く、まだ 10 ヶ所ですが説明できていないようですが、今後の関係作りを参考にしていきたいところです。また区域が広いので、ボ



ラセン一つで済むかという意見も出されました。運営スタッフの絡みが有りますが、これも港北区と同じ悩みです。

その他の違いとしては

- ・行政からの参加者が多く (5 名) 総務課長がボランティア役をしてくれていた
- ・社協が参加者へのお土産 (カロリーメイト) を用意してくれていた
- ・地元大学 (日体大) との災害協定ができていた。担当係長が取り持ってくれたそう
- ・桐蔭大学にも元保土ヶ谷消防署長の佐藤さんがゼミを持っており、今後の関係強化が期待できる

といった、港北区にはまだ無い強みも持っていました。今後も他区の訓練から積極的に学んでいきたいと思ひます。 (宇田川)

リレー連載 我が家の防災⑫ 中野さんちの防災

2011年東日本大震災後に受講した防災士の講習で「とにかく、家の中で怪我をしない、命を落とさないように！」と耳にタコができるくらいに言われました。1995年の阪神淡路大震災で亡くなられた方の8割以上が家屋倒壊・家具転倒等による圧死・窒息死だったから無理ありません。

それでもやっぱり私が一番気になるのはトイレです。水さえあれば、一日位食べなくても何とかかなりそうですが、トイレは待ったなし。避難所運営にかかわった方からも「避難所の仮設トイレがいっぱいになって使用できず、ゴム手袋をした手で糞尿をかき出した。」とか「そもそも東日本大震災で、発災後3日以内に避難所に仮設トイレが設置されたのは、34%だった。」とうかがってからは、より一層「トイレが大事」と思うようになりました。



缶詰状のトイレセット

さて、我が家の防災。日常の中で使いながら備えているトイレ関連のものは、「災害用トイレセット」70回分(5回/日×家族4人×7日を過ごすためにあと70回分追加購入する予定)、トイレットペーパー24個、新聞紙2週間分、ゴミ袋100枚(45L)、除菌用ウェットタオル2個(100枚入)簡易トイレ1台です。簡易トイレの本体は缶で、持ち手と取り外し可能な便座と椅子がつい

ています。普段は蓋をしてイス兼物入れに、災害時にはゴミ袋と便座をセットして使います。

「くさい、汚い、暗い、怖い、寒い、遠い、男女共用、数量不足、段差がある」など問題だらけの災害時のトイレ。あなたも一度我が事として向き合ってみませんか。

(中野保子)

災害本 「大災害と法」

津久井進著 岩波新書

全ての行政サービスは法律によって中身が決められています。災害時の「公助」と言われる行政サービスも当然そうですが、現実には似た様な被害を受けたにもかかわらず、受けられる公的支援が違ってしまふことが起きます。

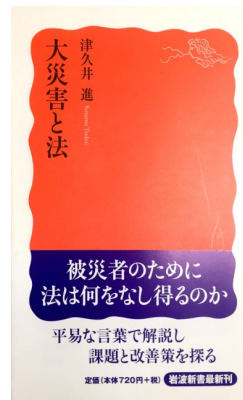
その原因には行政も含めて関係者が災害時にどの法令が適用可能なのか、それをどう使いこなせるのかを十分に知らない事から起さる事が多いのです。

災害時に役所の行動を規定するものには、法律と細部を補うため政府が出す政省令が有り、これは法的拘束力が有ります。それ以下の基準に「通知」や「事務連絡」がある事も知っておく必要がありそうです。

例えば東日本大震災や熊本地震の際に厚労省からの事務連絡として定員を超える受け入れや施設外でのサービスも認める事務連絡が出ました。これにより施設は柔軟な対応が取れ、経済的にも負担が出ないようになりました。

これらは新しい災害とともに運用基準となり新しい対応力となります。こういった法律の厄介な仕組みを分かりやすく解説してくれるこの本は新書という体裁から大変読みやすくなっています。この本を入り口にすれば法律も取っ付きやすくなると思います。

(宇田川)



[港北区開発防災アプリ]

まずインストール、使ってみよう！

港北区が市内で初めて独自開発した防災アプリです。このようなアプリは災害時に初めて使うのでは、大きくその意味が小さくなります。区報にもあるように日ごろの家庭での防災対策の1つとして使いこなしておくことが1番大切です。「区民モード」では現在地から位置情報付きメールを送る機能がついています。これはまず最初に家族全員で確認すべきでしょう。最近では小学生でもスマホを持っています。操作は簡単ですからすぐ覚えられるでしょう。

今回神奈川新聞から問い合わせがあり、会員にも呼びかけて使い勝手を確認したところ、「帰宅困難者モード」では以前取り上げた区内帰宅困難者受け入れ施設の中から現在位置からの直近施設が掲示されるかと思いきや、違う場所が表示されるなどの不十分な点も見つかりました。これらを区に提言するとともに、まずは使いこなすためにインストールし、試してみましよう。



3、福祉避難所に指定されたところは、防災資機材や職業生活用品を備蓄するようになってはいるが、避難対象者が生活しやすいような福祉資機材が必ずしも揃っているわけではないこと

4、避難所はあらかじめ各施設ごとに定められた人数の範囲内で受け入れること

5、避難者の受け入れは区長が認めた場合などなど、いろいろ難しい条件があります。

災害時の混乱の中で、これらがどううまく機能するかは疑問です。ある調査では避難所指定された施設が何人受け入れられるかの回答で1番多かった数字は1名でした。

本当に避難できるの？休めるの？

過去の大きな災害では指定避難所だけでなく、ありとあらゆる公的施設に避難者があふれました。指定避難所に入れず、中学校、高校、地区センター、地域ケアプラザ、そして区役所にも避難者が来る事も考えられます。避難者は必ずしも自宅が被害にあった人とは限りません。ライフラインが止まったから、怖いから、近所がみんな避難したから、避難所でなければ物資が貰えないから、など様々な理由で避難してきます。そんな中、例えば地域ケアプラザが福祉避難所指定だからと、まずは一般避難者を断り、ついで認定された避難者が来るのを待つ、などという手順が成り立つのでしょうか。

はっきり言ってこの問題はとても難しいのです。だからこそ関係者がもっともって考えておかねばなりません。日本の避難所はとても劣悪な環境ですが、私たちは報道される体育館に雑魚寝スタイルを見過ぎたせいか、あれが普通と思いついてしまっています。しかしそうではいけないのです。

変えよう、避難所のありかた

中野さんの投稿にも有るようにトイレは避難生活での深刻な問題です。トイレがらみで体調を崩した例は多数報告されています。トイレに行きたくないから水を飲まない→脱水とか、男女のトイレが並んでいて使いにくいとか、夜のトイレで性的暴行

考えよう、福祉避難所

横浜市が名称変更 4月から

この4月から横浜市はようやく「特別避難所」の呼び方を止め、全国的に使われている「福祉避難所」との言葉に変更しました。しかし福祉避難所にはいろいろな条件が付けられている事はあまり知られていません。

- 1、直接避難してはいけない事
- 2、区の判断で二次避難所に行くことに決まっても、移送サービスは無いこと

が起きたとか、健康や生命に関わる深刻な問題も起きています。

イタリアでは移動トイレ（シャワールーム付き）が全国に備蓄しており、災害の翌日には届いたそうです。食事も食堂テントで温かいものが提供されるそうです。メニューにはステーキ、パスタ、デザート、そしてワイン。



スロープ付きの移動トイレ

これらをすぐに日本に導入しろとは言えません。そのためには予算措置が必要になり、必然的に他の予算を削る事も考えなければなりません。しかし関東大震災から続く、雑魚寝とおにぎりの避難生活でいつまでも良い筈はありません。それではいけないと強く思う事から、次の対策への知恵を出す事へつながります。それが拠点訓練を考え直す事にもつながって行きます。

(宇田川)

より役にたつ HP・紙面へ

見てみよう！ HP リンク先

中島さんのおかげで大変見やすいホームページになりましたが、今までリンク(関係先情報)をつけていませんでした。今回、災害ボランティア団体、官公庁、災害情報、災害福祉と大別したリンク先を掲示しました。お馴染みの JUNTOS や会報をいただいているレスキューストックヤード、国の災害関係の取り組みが一覧できる内閣府防災のページなど多彩です。ぜひ一度覗いてみて

ください。皆さんからも役にたつリンク先の情報をお待ちしています。

新シリーズへ情報を！

「役に立つ」と言う好意的な評価をいただく一方で、「字が多い」「かたい」とのご意見もいただく連絡会ニュースです。そこで4月号からは字数を減らし読みやすくするとともに、5月より次のような連載を開始します。好評の「〇〇さんちの防災」と同じく会員の方からの投稿で紙面を作り上げていきたいと思っておりますので、会員の方のご協力をお願いします。

「使って良かった防災グッズ」

「災害時にも役立つ日用品」

防災グッズは買って揃えたものの使わないことが多いのが欠点です。普段使いをしたら結構便利だった商品はありませんか。

一方防災グッズと銘打ってはいないけれど、これ災害時にも便利じゃないと思える品もあります。そんな品の紹介をお待ちしています。



「会員の活動お知らせ欄」

会員の活動を共有するための情報提供です。HP や FB で対応します。こんな集まりが有る、こんな企画に来て欲しい、など何でも結構です。

★ 編集後記..... ★

☆新年度計画、皆さんの大きな声を。ニュースにも皆さんの大きな声を。(宇田川)

☆港北区災ボラのHPのURLは本ニュース1ページ目、タイトルのところにあります。

(室伏)

☆編集を初めて早2年、読みやすくするのは難しい。みなさんのご意見を戴きたーい。

(付岡)

☆イベントに「人を集める」ことの難しさに昔から悩んでいます。イベントの告知の know how をもっと研究したほうが良いのかもしれない。

(中島)